

侍従川におけるハゼの保全と人工産卵床の重要性

11108073 菅沼祐太

11108135 山下佳大

1. 背景と目的

神奈川県横浜市金沢区を流れる侍従川において、2013 年 3 月、山王橋～大道東橋間で河川工事が行われた。工事の目的は川底に溜まったヘドロ除去であったが、工事後、山王橋～大道東間におけるハゼ類の産卵数が激減した。原因は、川底を削ったことで流れ出た砂や泥により、ハゼ類の産卵床となる石が埋まってしまったことであると考えた。

そこで本研究では、ハゼ類の保全につなげるにあたって、産卵数の減少が見られた明戸橋～長島橋間に人工産卵床を設置し、ハゼ類が産卵床として用いるかを実践・検証した。また、ハゼ類が産卵床を求める条件を模索し、効率の良い人工産卵床の設置方法を考察することで、工事が行われた上流域における産卵数の増加を促す事を目的とした。

2. 方法

2.1 調査地について

侍従川は、鎌倉市と横浜市の境にある朝比奈峠を水源とし、金沢八景の平潟湾へと注ぐ二級河川で長さはおおよそ 2 キロメートルである（図 1）。



図 1 侍従川 4)

2.2 調査地点について

産卵状況の調査は、上流の大道橋から下流の泥牛橋間を対象地点として行った（図 2）。この水域は、地元のボランティア団体侍従川に親しむ会に

より定期的な清掃活動が行われており、生態系が保たれている。また 2012 年より当該団体によって泥牛橋～大道橋間でハゼ 3 種の卵塊数調査が行われている。

人工産卵床の実践を行ったのは侍従川に親しむ会の学生部が行った 2012 年と 2013 年のデータを元に比較して、産卵床の減少数の多かった明戸橋～長島橋間とした。

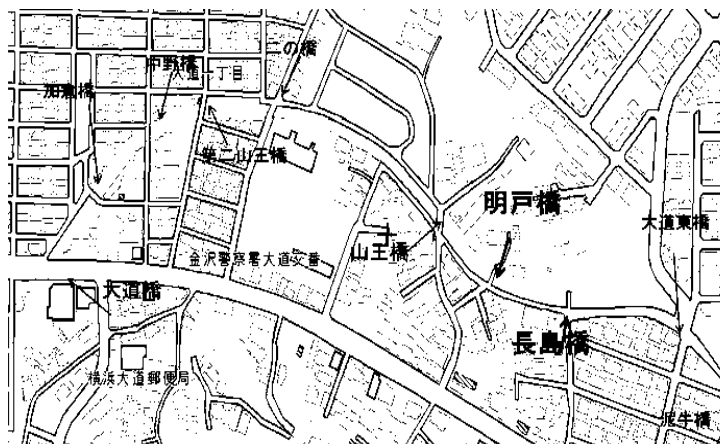


図 2 侍従川調査地点 4)

2.3 対象生物について

2.3.1 チチブ： *Tridentiger obscurus*

スズキ目ハゼ科ハゼ科チチブ属に属する。全長は 8cm 程度で、体色は濃褐色から薄褐色で、頭の側面には不規則な白色斑が密に点在する。頭部は丸く大きく、太く短い円筒体形をしている。卵塊は銀色をしている（図 3）。



図 3 チチブ 3)